

松本障害保健福祉圏域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

<p>部会・プロジェクト名 地域生活支援拠点等事業検討プロジェクト 空床確保事業 事業所会議</p>	<p>開催日：令和 3年 11月26 日（水） 時間： 10:00 ～ 11:30 場 所：梓川公民館 第3会議室</p>
<p>参加者構成機関名 松本市、安曇野市、基幹相談支援センター、穂高悠生寮、GH 夢ハウス、グランドリッシュ、あい・アドバンス今井、共立学舎、事務局（中信社会福祉協会）</p>	
<p>次第 （1）令和4年度空床確保事業について （2）意見交換 （3）その他</p>	

会議内容

（1）会議に先立ち、令和3年度空床確保事業の延期に関する通知を、市村より各事業所に手渡しする。また、本日の会議の趣旨説明をプロジェクトリーダーと松本市より行う。

【会議の主旨及び目的】

各事業所への聞き取り結果（コロナ下での事業は実施はできない）を踏まえ、市町村部会と当プロジェクトで事業開始に向けて検討した。コロナ感染警戒レベルに関わらず、受け入れが実施できるための条件や方法などについて、本日意見交換を行うことになった。

（2）意見交換

- ・感染警戒レベルに応じた受け入れ判断については、事業所（法人）により差がある。
- ・サテライト型 GH の利用での受け入れも事業所側で対応可能であれば、市村としては実施可能。
- ・個別対応ができる GH の利点を生かすことが出来るが、共有スペース利用もあり、普段からの感染予防策に合わせた対応としていきたい。
- ・入所施設は、構造的に個別の隔離対応は困難。また、入所者の重度高齢化の現状では、感染症での死に至る場合のリスクもある。またマスクの着用ができない入所者もあり、慎重にならざるを得ない。
- ・受け入れ時の条件としては、①過去2週間の行動履歴確認（本人、同居家族） ②体温や体調確認 ③ワクチン接種済 ④PCR 検査を受ける ⑤ 台帳登録者 が考えられる。
- ・受け入れ後の感染対策…通常の対策で対応
- ・今後、緊急時の受け入れ先を考えた時、今の5事業所だけでは対応は厳しい。受け入れ事業所を増やすことの検討も必要だ。
- ・コロナ禍も災害時と考えたら、既存の事業だけでは不十分だ。例えば、行政がアパートを借りそこへ人を派遣するというような、新しい事業の仕組みの検討も必要だ。
- ・感染レベルに応じた、事業の制度設計の検討が必要だ。

（3）その他 今後に向けて

（ア）各事業所（法人）は、受け入れ条件について検討を継続していく。

(イ) 市町村部会やプロジェクト会議にて、本日の意見をもとに検討。

(ウ) さらに多くの事業所への働きかけについて、プロジェクトで検討。

(エ) 緊急時空床確保事業の対象者は、台帳登録者であることの理解が広まっていないことも現状の課題としてわかったので、今後拠点等整備事業の普及啓発の必要性も確認された。